



## 1 自己評価

I 評価結果  
(別紙参照)

II 分析・改善策

### 1 学力向上

- ・基礎・基本の徹底
- ・専門知識・技術の習得
- ・1人1台端末を活用した学習活動の充実

学力向上のための家庭学習の推進については、学校自己評価アンケートの家庭学習習慣の定着についての質問に対して40.6%の生徒が肯定的な回答をしており、昨年度より肯定的回答率が1.8%高まったが、目標としていた50%には到達することができなかった。

宿題に取り組むことで家庭学習習慣が少しずつ身につけている学年もあり、基礎学力定着に向けて、各教科で適切な量と質の家庭学習課題の設定を継続的に行っていく必要がある。

1人1台端末を活用した学習活動の充実の取組は、6月と11月に勝間田コミュニケーションウィークを実施し、ICTを活用した授業づくりや課題作成等について、経験年数によるOJTチームを中心に、情報共有や意見交換を行い、「わかりやすい授業」を目指し、授業改善に取り組んだ。また、ICT活用推進リーダーとICT活用次期推進リーダーによる研究授業を実施し、授業内での活用方法や課題配布やプレゼン発表、ふりかえり等での活用方法について、実践例を共有することで、その後の授業改善やICT活用につながった。その結果、学校自己評価アンケートの「分かりやすい授業が多い」という質問に対して、79.1%の生徒が肯定的な回答をしており、昨年度より肯定的回答率が10.3%と大きく向上した。

### 2 生活習慣の確立

- ・ルールの遵守
- ・挨拶の励行
- ・自己管理能力の向上

生徒課を中心に学校全体で生活指導に取り組んでおり、生徒の生活態度は落ち着いてきている。近年の傾向としては暴力的または反社会的な事案は減少傾向にあるものの、交通マナーに関する外部からの苦情やSNSに関わるトラブルが多くみられた。携帯電話使用のルール違反等、軽微なルール違反に対する指導票指導は、130件で前年から44件増加した。このことは、生徒の実態を鑑みれば、生徒のルール違反が増えたことによるものではなく、教員集団がよりきめ細やかに生徒指導にあたった結果であると考えられる。

生徒会、農業クラブがあいさつ運動を定期的に行ったり、生徒会が清掃時間に清掃に対する生徒の取組を改善するための試みをしたり、生徒会が年間3回にわたってスクールミーティングを行い、生徒自身が「入って良かったと言える学校」にするための取組を行ったりと、生徒が主体となって、より良い学校にするための取組を進めている。その成果もあり校内の環境は年々改善しており、ゴミの放置等が散見されるものの、基本的には整った環境が維持されている。

自己管理能力の向上については、保健だよりや朝の健康観察の指導の徹底により、生徒の健康管理面での主体的な動きや、より良い生活習慣の継続の動きが出てきている。今後

も、データや根拠を大切にしつつ、生徒の健康管理能力向上に努めていきたい。

### 3 進路実現

- ・キャリア教育の充実
- ・学校生活(部活動・資格取得等)の充実

1年生は、全員がクラスごとに分かれて、各クラス2社、勝央工業団地等の地元企業を見学する地元企業見学を実施することができた。

2年生は、「ジョブフェア in 勝間田」に参加したり、企業ガイダンスに参加したりすることができた。また、各系列の関連産業や企業へのインターシップを希望者に対して実施することができた。その結果、各系列の関連産業への就職や、関連上級学校への進学への意識を高めることができた。

生徒一人一人の進路実現のために、学校全体で対応することが増えた。就職の面接強化週間など、学校全体として対応できるように計画できた。また、外部の方にもご協力をいただき、模擬面接を実施することもできた。

支援を必要とする生徒の就職について、早い段階から就労体験を重ねながら就職先を決定する等、就労までのプロセスについて就職アドバイザー、就労支援コーディネーター、S Wや関係機関等と連携を取りながら、対応することができた。

### 4 情報発信・広報

- ・教育活動の見える化
- ・三者協定の充実と地域活動の定着
- ・地域人材の活用
- ・SNSの活用

広報については、学校、しょうおう志援協会、勝央町の三者協定に基づき、学校と地域が一体となって取り組んでいる。中学校での進学説明会、オープンスクール、本校での学校説明会に加えて、地域協働活動コーディネーターによるSNSでのリアルタイムな情報発信、学校ホームページでの生徒の「日常の学び」についての情報発信を行った。

しかし、中学校卒業見込者の第一次進学希望状況調査(12月1日現在)75名、同二次調査(1月10日現在)74名、二次募集を含めた合格者は76名となり、昨年度の110名を大幅に下回ることとなった。中学校単位であれば、必ずしも志願者が減っている学校ばかりではなく、増加している中学校もあり、広報については、一定の成果が出ていると考えられるが、県北の中学生、特に美勝英地域の中学生の減少の影響が大きく出た形となった。

今後も、引き続きさまざまな形で広報に取り組み、学校の実態を地域の生徒・保護者等に正しく理解していただくことで、本校で学ぶことの意義・魅力を伝えていきたい。

## 2 学校運営協議会委員(評価者) <※校長を除く>

水嶋 淳治	勝央町 町長
神田 寿則	勝央町教育委員会 教育長
浦島 毅	勝央町立勝央中学校 校長
岡 誉久	勝英農業普及指導センター 所長
竹久 伸二	JA 晴れの国岡山勝央事務所 副所長
三ヶ田浩二	キャリア教育コーディネーター
石原 達也	みんなの集落研究所 代表執行役
青山 千香	(株)ニッチ 営業部部长
野上 和宏	野上石油(株) 代表取締役社長(勝央中学校学校運営協議会 委員)
本行 才泰	しょうおう志援協会 会長(勝間田小学校学校運営協議会 委員)
佐乗 充倫	地域協働活動コーディネーター

安東 厚生	岡山県立勝間田高等学校	同窓会長
永禮 淳一	岡山県立勝間田高等学校	元PTA会長（永禮ファーム 経営者）
春名 雄治	岡山県立勝間田高等学校	PTA会長

### 3 学校関係者評価

第1回 令和6年 6月4日（火）13:30～16:00

【主な内容】

- 委員紹介
- 学校運営協議会について（説明）
- 会長選出
- 本校の現状と課題（説明）
  - （1）令和5年度の教育活動
  - （2）令和5年度学校評価書
  - （2）令和6年度学校経営計画等
  - （3）令和6年度の主な行事について
- 質疑応答
- 意見交換

<委員からの意見等>

●リブランディングにより勝間田高校についての印象が変わってきたということだが、リブランディングされて今、勝間田高校は地域からどういう印象なのかをどうやって調べているのか。町民アンケートなどを実施したりしているのか。

●その調査の結果を公表することがイメージの刷新につながると思う。私から2つ提案がある。先日の植樹祭は本当に素晴らしかった。最近こうしたジャンルで感じているのは、ネイチャーポジティブについて。生態系の保護を世界でどう実現するのかということ。環境省の30by30は、国土の30%の自然環境の保護を目標に掲げて、全国100地域くらいはそうした保護地区に指定するというをやっている。岡山県では水島だけ。そこで、勝間田高校の演習林などの土地をそうした場所にしていければ、岡山県内には例が少ないし、PRにもなるのではないか。

もう一つの提案は、ユニバーサルな教育現場について。去年も高校生たちが生理用品を入手しやすい環境を作ることを応援させていただいたが、まだまだジェンダーギャップについて理解が低いところがあり、スクールミーティングでそうしたことを考えていただけたら嬉しい。

●学校評価書の中の情報発信や広報の中で新たな取り組みとは何か。また、「マーケティング」の実践の中で商品開発とあるが、具体的に何か計画があるのか。さらに、県立高校では収益事業は行わないということだが、地域の企業と連携して商品開発などを行い、活動費くらいの利益はあってもよいのではないか。

●以前、「サバ缶宇宙へ」というものがあり、世界へ発信できることもある。そのためには時間がかかるが、後輩に脈々と受け継がれていくことも大切。勝間田高校でも、森林系列にあるレーザー加工機を使った商品開発ができるのではないか。

●勝央町は町内の小・中・高のつながりがあり、このつながりを重視していきたい。高校入学後どうなったのかは、子どもさんを送った方にも責任がある。つながりを密にすることで、退学率や留年が減ってくれればと思う。そのためにも今後とも協力をお願いしたい。

●勝央町の特産品であるアスパラガスをいかした商品開発を食品コースで進めている。勝英アスパラガス部会があり、部会の戦略としては、一つは生産力のアップ、もう一つについては、勝英は県最大のアスパラの産地であるにもかかわらず地元には意外と知られていないため、地元へのPRがある。そうした中で、まず、職員が生徒さんに向けて育て方の授業を行い、次に奈義町にある選果場の現場も見えていただいた。その後、特産品のPRのため、商品開発の提案をさせていただいた。

●商品開発やマーケティングなどの展開は、普通科高校にはない。商業や農業といった産業を学ぶ学校だからできることだと思う。

●最近、新聞でなぎなた部のことや女子生徒がチェーンソー大会に出場したことを知り、自分のことのように嬉しい。商品開発については、毎月ゆのごうマルシェに参加されているということで、準備など大変だとは思いますが、自分たちが開発した商品をこうした場で売れるというのは楽しいだろうなと思う。

●女子も伐木チャンピオンシップに出られたり、女子が森林コースに入っていたりということが知られ、高い目標をもった生徒が集まると良いと思う。

それぞれの立場で外に向けて一步踏み込んだ活動ができればよい。例えば、外からアイデアプランコンテストを募集するなど、リスクも伴うが、何か新しいことができればいいと思う。

●先ほどから何度も「マーケティング」という言葉が出ている。商品開発をして、売れるようにすることが商業高校ではないのにできるのはすごい。商業と農業の先生がタッグを組み、垣根を越えて指導する。生徒に他校ではやっていないことを自分たちはやっていると思わせる。そして、自分たちが作った商品を地域に売ること、自分たちはすごいことをやっていると思い、学校の魅力発信にもなっている。これは、よいスパイラルになっているのではないか。先生方が、真摯にやってこられたことが、新入生110名という数字に表れているのではないか。この学校運営協議会は、学校の内側にいる先生方では解決できない問題を、我々で解決できることがあればとスタートした。会としても成熟してきたと感じている。

## 第2回 令和6年10月31日(木) 13:30~16:00

### 【主な内容】

○授業参観及び施設見学

○報告

(1) 学校経営・組織編成に関する事項

(2) 予算執行に関する事項

(3) その他関連する事項

○協議(グループ協議と共有)

「勝間田高校のさらなる魅力化・教育の充実並びに意見書(骨子)の検討」

### <委員からの意見等>

●農業高校の強みを活かすような部活動があってもいいのでは。農産物の栽培だけでなく、商品化やその過程を研究させるなどはどうか。

●通級の指導は専門性に長けた人でなければならない。人が必要なのが現実だと思う。これは強く要望していただきたい。高校は、入学した子を無事に育て上げ、卒業させるという使命を持っている。その使命を全うするためには、そういう教員がどうしても必要だと思う。

●特性をもった生徒が入学してきて、高校卒業後は就労していく。通級指導だけでなく、3年かけて特性をもった生徒たちをどう社会につなげるかという点で、高校は最後の砦になっている。そのためにも人が必要。今年度も要望できたらと思う。

●ビジネスの学科があるので、広報やマーケティングについてももう少し生徒にやらせてもらってもよいのでは。その授業に高校コーディネーターが講師として参加してみてもよいのではと思う。

●特別支援が必要な生徒は、県立高校だけでなく私学にも多い。そうした子たちは、卒業後に早期離職をしてしまう。そこで、私学協会が立ち上がり、早期離職対策室を設けた。中小企業の社長さんたちが協力してくれた。福祉心理士も巻き込んだ。プログラムを通して、若干ではあるが、生徒たちは変わる。特別支援教育に係る人材については、先生方の負担を軽減するために、福祉心理士とタイアップしてみてもは。それに協力的な企業を見つけ、最終的にはその企業に就職し、早期離職をしない仕組みをつくる。企業にとっても早期離職は課題であるため、両方がwin-winになる関係をつくってみてはどうか。

●新入生のアンケートの中で、資格が取れるから勝間田を選んだという意見が多かったので、こうしたことも情報発信していただきたい。

●特色のある学科があるのが魅力。森林コースの女性が伐木の大会に出て頑張ってきたという

のは、本当に好きだから入ってきたのだと思う。こうしたことを発信することで興味をもってもらえると思うので、情報発信はとても重要である。

●SNS は子どもの目線で子どもたちが自分で発信するのがいいのではないか。発信の仕方などを伝えていくのがいいのでは。部活については、会社をつくってみてもいいのでは。それぞれのコースの生徒が入部し、SNS の発信などをしてみてもおもしろいと思う。

### 第3回 令和7年 3月4日(火) 13:30~16:00

#### 【主な内容】

○令和6年度 学校運営に関する評価

- (1) 教育活動報告
- (2) 学校評価

○「高校コーディネーターによる高校と地域の連携・協働推進事業」について

○リブランディング会議活動報告

○令和7年度に向けた学校運営基本方針協議

- (1) 令和7年度学校経営計画書
- (2) 令和7年度主要事業予算
- (3) 令和8年度入学生教育課程

#### <委員からの意見等>

●勝間田高校ではインターンシップはされているか。今、愛媛県や大分県や長崎県では、インターンシップではなく、バイターンシップというのが盛り上がっている。企業は、インターンシップの際に、なかなか本音でぶつかれない。そこで、給料を出す代わりに、その仕事の厳しさを見せるというやり方が広がってきている。そうした新しいアイデアを入れてみてはどうか。

●保護者から学校に求めることと学校がそれに答えてくれていることに関して、まだまだ改善の余地がある。そうした投げ掛けを今後も保護者として行っていきたい。

●卒業式に出席したが、みなさんが言われたように、学校全体が落ち着いてきている。具体的に言うと、体育館に入って1、2年の前を通ると、前列の子たち全員が挨拶をしてくれた。送辞の生徒が、全国植樹祭の内容についての話をしていたが、あれだけの大きな式典なので、それだけの苦勞をしていたのだということがよくわかった。答辞もでしたが、子どもたちがあのような言葉で話ができたとすることは、勝間田高校の教育成果が出ていると感じた。地域と連携し、地域の教育資源を活用しながら、また、勝間田高校の教育資源を地域に戻していくという循環的な教育のスタイルなど、地域との連携がより見える体制になってきているというのは、頼もしく感じている。生徒募集や学校の魅力につながる土台はできている。しかし、生徒募集は年によって変わっていく。来年度以降の入学者をいかに確保していくのかは、大きな課題であることは間違いない。

●人材不足を切に感じている。人手不足を解消する一つはAI だと思っている。AI からは逃げているはいけない。AI は、人手不足を解消するととても良いツールである。AI で代用できる仕事はたくさんあると思う。「1分でも大切な人と過ごす時間を」という見方をして、AI を使って時間短縮をしてほしい。来年も機会があればAI のフォローをさせてもらい、人手不足の解消につながることをできたらと思う。

●3点あります。まず、1点目ですが、今、津山朝日新聞がYahoo!ニュースと提携していて、津山朝日新聞の記事がYahoo!ニュースに出る仕組みになっている。こうした仕組みをうまく活用してはどうか。

また、部活にも力を入れてほしい。例えば、ドローン部など勝間田高校ならではの特色ある部活動を作り、地域の方と一緒に運営ができるなど、魅力の一つを部活動から考えていくのもありなのではないか。

あとは、就職の面でもどういった企業に就職できるのかなどもうまくPR していけたらいいのではないか。

●勝間田高校の良さを出していけばいいのではない。県北にこれほど産業のことを学べる学校

は他にない。中学生が高校を選ぶ時に、産業のことをまだまだ理解していない面がある。

また、先ほどバイターンシップの話聞いて、非常にいいのではないかと思った。

●この会には第1回から関わっているが、確実に時代のニーズや外部に対してやらなければならないことはできてきていると感じている。しかし、なかなか周囲の受検生からは「勝間田高校へ」という声が聞こえない。質問してみると、どんなコースがあるのかなどを親や地域の方が知らない。勝央町の人たちも知らない人がたくさんいる。学校運営協議会の委員は、地域から選ばれて、学校で解決できないことを我々が一緒になってやるということがスタンスだと思うが、その立場から見ると、勝間田の人たちが、勝間田高校のことを話せるようになることが大切なのではないか。店にポスターを貼るだけでも、質問がくる。定員募集は地道な作業になる。デジタルとアナログを駆使し、クチコミで勝間田人を味方につけるという原点に戻ってみる価値があるのではないか。

●勝英のアスパラガスを元気にしようという取り組みをしているが、元気にするためには、地元でしっかり認知度をあげることが大切だということで、勝間田高校とコラボして新しい商品を開発することになった。勝間田高校の生徒にアスパラガスを認知してもらえ、反対に、試作したものを農家の人に食べてもらおうと、勝間田高校に協力してもらっているということで「じゃあ、がんばろう」と元気が出て、農業にも高校にも相乗効果があると思う。商品開発については、引き続き協力をお願いしたい。

●勝間田高校は本当によく頑張っている。地域貢献だけでなく、挨拶もきちんとできるし、問題行動も減ってきている。勝央町としては、小中高で問題行動について、生徒指導の先生で話し合っている。今、通信制へ行く子が増えている。県南に行ってしまう子もいる。勝間田高校の良きの自然とふれ合う機会が多いことに、興味を持っている子もたくさんいると思う。勝間田高校に行けば、これができるということを訴えることや、勝間田高校の学校評価を高めることも必要なのではないか。

●勝間田高校もいろいろとやっているが、話を聞いていると、地元の人に届いていないと感じる。来年はその点を強化するように整備していったらいいと思う。

●昨年は、勝央町も勝間田高校にはご協力をいただいた。特に、森林コースのレーザー加工機は、素晴らしく好評で人気がある。こうしたものを活かして、生徒たちに特産品を作って、それをPRしてみてもいいのではないか。

●勝央町はモンゴルのウブルハンガイ県と姉妹都市縁組みをしているが、1月に学校訪問させていただき、訪問団はとても喜んでた。今、モンゴルは日本にとっても興味を持っていて、留学生を受け入れてくれるなら行かせたいという気持ちを持っている。いきなりそこまでは難しいかもしれないが、夏休みなどを利用して交流するなどしてみれば、それも勝間田高校の魅力につながるのではないかと思っている。もし、そうしたことが可能なら、勝央町としても支援、協力をしたいと思っている。

#### 4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

##### 1 学力向上

- ・家庭での学習を推進し、生徒の自主的・主体的な学習への取組を研究、実践。
- ・学び合い、ユニバーサルデザインによる授業やソーシャルスキル教育の実践。
- ・1人1台端末を活用した学習活動の充実。
- ・社会人講師等の地域人材を活用した教育の充実。

##### 2 生活習慣の確立

- ・「勝間田スタンダード」の深化、基本的な生活習慣と安全な生活の確立。
- ・交通安全の徹底。
- ・校内美化、校外清掃活動の推進。
- ・自己の健康への関心と健康意識の向上。

##### 3 進路実現

- ・キャリア教育の充実による、生徒が主体的に進路決定できる力の育成。
- ・生徒会活動と地域連携活動・部活動等の課外活動等の充実。

#### 4 情報発信・広報

- ・教育活動の見える化。
- ・勝央町・しょうおう志援協会との三者協定に基づく地域連携活動の充実
- ・地域協働活動コーディネーターとの連携。地域人材の活用。
- ・オープンスクール・中高連絡会・中学校での説明会等での中学生とその保護者への情報発信。
- ・勝央町の広報誌、マスコミ、HP・SNS等を活用した情報発信。

